

## 「さまざまな試練にあうとき」ヤコブ1：1～4 堀田修一 21・1・17

ヤコブの手紙：緒論（本論の前置き、序論）①共同書簡＝宛先が「地区の教会ではなく、広範囲の教会。②著者：主の兄弟ヤコブ。③執筆年代：AD（主の年）45～48年頃。④執筆場所：エルサレム。執筆事情：国外に散って試練に会っていたユダヤ人キリスト者への励まし、信仰があれば行いはなくてもよいとする誤りを正し、舌や罪の欲望への戒めの為に書かれた。⑤宛先：国外に散っていたユダヤ人キリスト者へ→：1。

I「私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい」：2。神ご自身と神の愛と救いを喜び、他方では、悩み悲しむ。ここに、矛盾はない（「あなたがたは大いに喜んでいますが。今しばらくの間、様々な試練の中で悲しまなければならぬのですが、試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちて行く金よりも高価であり、イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と誉れをもたらします I ペテロ1：6－7）。私達クリスチャンの歩みは、いつもこの二つの要素を含んでいる。試練と祝福、恵みは共存している。どちらか一方ではない。試練の中に恵みがあり、祝福、恵みの中に試練がある。苦悩や悲しみは、クリスチャンでも持つ感情。神は人間を造り、大切な感情（大切なサイン、心の応答の現れ）を与えられた。感情的になり人を傷つけるのは良くない。しかし、悲しむべき時に悲しみ、喜ぶべき時に喜び、お互いの感情を尊重することは大切な事です。聖書に聖徒たちの弱さが正直に記されているのは大きな励ましです。彼らは、悲しみ、悲嘆、孤独、失望を経験しました。主イエスも使徒パウロも悲しみを経験し、その事実を隠そうとしません。信仰の人パウロも生身の人間。私たち主を信じている者は、主が悲嘆を乗り越える力を与えて下さる恵みを知っていますが、信仰生活の素晴らしさは、悲しみ、苦しみを乗り越えた上で乗り越えていけるという点にあります。神が与えられた感情を放棄してしまったわけではありません。これは非常に大切な事です。当時のクリスチャンの多くは迫害の中にあっただけです。「確かに、キリスト・イエスにあって敬虔（神を敬う聖さ、誠実さ）に生きようと願う者はみな、迫害を受けます」（IIテモ3：12）。「旅人であり寄留者であるあなたがたは…異邦人の中にあって、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしても、あなたがたのそのりっぱな行いを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります」（Iペテロ2：11, 12）。主の生涯を見ましょう。悪、罪が何一つなく、口に偽りがなかった。病人をいやし、愛を行い、みことばを宣べ伝える事に生涯を費やされた。しかし、その主は、ひどい迫害を受けられた。不当な苦しみを味わわれた主が今、私たちと共におられ、私たちへの迫害、苦しみを理解し支えて下さるのです。家族、知人、友人、人から誤解されることは非常に辛い事、耐え難いものです。イエス様もパウロも、辛い事を体験しました。「デマスは今の世を愛し、私を捨てて行った」（IIテモ4：10）と述べた時のつらさは、いかばかりだったことでしょうか。試練に立ち向かう時、あてにできると思っていた人々が突然離れ去って行き、一人残された。イエス様も十字架を前に経験された「弟子たちはみなイエスを見捨てて逃げてしまった」マタイ26：56。時として私たちはこのような試練を通される。しかし、主はいつもともにおられることを忘れてはいけません。「見よ。わたしは…いつも、あなたがたとともにいます」マタイ28：20。

Ⅱ 試練を「この上もない喜びと思いなさい」：2。この「思いなさい」の原語は、「と思う、見なす」の意。英訳：deem、count。無理をして喜ぶのではなく、内住の聖霊による知性による判断。試練を喜びとみなせる、判断できる理由。次の事実を御聖霊の教えにより知っているから→①試練は、すべて神の御手の御支配の中にある。「雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません」(マタイ10：29)。神はすべてのことを支配しておられる全能の方。

②神の許された試練には何かの意味、目的がある、偶然に起こるのではない→

i 私たちに忍耐を与え、主の姿、愛と聖さの品性に変え続け「成熟した、完全な者と」なる為の愛による訓練→ヤコ1：4、ヘブル12：6。

ii 気が緩み、誘惑により墮落しやすい私たちを矯正（神と正しい関係に戻す）する為。

※コロナ予防にも忍耐の時が続いていますが、祈りつつ予防をして行きましょう。辛い中にある人々の為に祈りましょう。

iii 神とみことばにもっと渴き、神を求めようになる為。

iv 試練の中にある他の人々の為に、深い思いやりが生まれ、祈り支える者に変えられる。今も世界中で迫害の中にあるクリスチャンが、主の救いを喜び、忍耐し、人々の救いの為に祈っておられる人々からとりなし祈る私達も励まされる！

v 将来の働きに備えさせる為。私たちが信用できるか確かめられる。将来の重大な働きの為に辛い経験を通らせ私たちを整えられる。ヨセフ、モーセ、ダビデも。パウロは一生涯が試練の連続だったようです。しかし彼は主にあって試練の中で満ち足りていた。ペリピ4：11。

vi 信仰の純化の為。信仰の本質に属さない不純なものを取り除く為の試練。周囲の状況が全く絶望的な時でさえ、神に信頼する信仰を養う為。「望みえないときに望みを抱いて信じました」ローマ4：18。

vii 「信仰がためされると忍耐が生じる」ことを知っているから。ヤコ1：3。忍耐とは、失望させられるような状況の中でも前進し、活動できる徳。忍耐の原語は、「逃げ出さずに留まる」の意。神が置かれた所から逃げずに留まり（DVなど脱出すべき時もある）、やけになったり、きれたり、神を逆恨みせず、そこにおられる主にとどまり、抛り頼み、学ぶべき霊的学科を学び、主と共に歩む。私達は、生まれながらに忍耐深い者ではない。一瞬のうちに、すべてが与えられる事や問題がすぐに解決する事を願う。与えられないと苛立ち、不平を言う。忍耐がない。最も大切な資質は、物事が自分の思うように進まなくても前向きに生きることができる忍耐。私達は「神は私にとって何が最善であるかを知っておられる。その神に信頼し続けよう」と自分に語り掛けよう。「たとい私は死に渡されても、神に信頼し続けよう」と語り掛け告白しましょう。それこそが、ヤコ1：4の「その忍耐を完全に働かせなさい」の実践。互いに励まし合おう。試練の中で共に神を見上げて。信仰が強められ、完全なものとされるのは、私たちが試練に遭遇し、試みられている時。究極的には私たちの益（主の品性への成長）として下さる。これら i～vii の霊的な事実を思い起こし神の前に静まろう。そうし続ける時、助け主なる聖霊は、試練の価値を私たちに深く教えられ、「さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい（原語の意味：霊的な判断力で喜び（価値があるもの）と見なしなさい）」：2の御言葉を実行できる者に私たちを変え続けて下さる。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます」マタイ19：26。

あなたは試練の中にありますか。忍耐しつつ神に希望を置き、神に抛り頼み祈りましょう。